

ワークショップ

『福祉と住宅の連携とは？』

今回のワークショップの目的

住宅確保要配慮者に対する住まいの確保などについて、福祉部局と住宅部局における課題を共有しよう。

居住支援に向けて、相互の理解を深め、今後の連携について考えよう。

今までの勉強会

- 新たな住宅セーフティネット制度について。
- 地域包括ケアシステムについて。
- 居住支援協議会や地域包括ケアシステムなどの先進事例の紹介

ワーク① 「ここが難しい！？住宅と福祉の連携」

○要配慮者の住まいの確保や公営住宅の入居などについて。

それぞれの業務・所属で日頃、感じている課題はどんなことですか？
また、お互いの連携状況について、どのように感じていますか。

例えば、

福祉部局： 要配慮者の住まいの確保や維持などに関する課題。
住宅部局との連携について思うこと。 など

住宅部局： 公営住宅への要配慮者の入居や家賃滞納・回収の課題について。
民間賃貸住宅の活用について。福祉部局との連携について思うこと。 など

ワーク② 事例検討1

民間賃貸住宅(家賃3万円)に居住していた70歳の単身男性。
郊外に居住していて、車が手放せない。
元々、貯蓄はあったものの、年々目減りしてしまった。
現在の収入は月6万円の年金のみです。
3カ月の家賃滞納を起こしてしまい、退去を申し渡された。
身寄りはなく、保証人もいません。また、生活保護は受けていません。
以前、生活保護について〇〇市へ相談に赴いたが、
車を手放せなかったため、申請しませんでした。

1)この方の、次の住まいが決まりません。

大家さんに断られる理由は何ですか？

2)この方が住まいを確保するためには、どんな支援が必要ですか？

それぞれの部局で、どんな支援が出来るのかも考えておきましょう。

ワーク③ 事例検討2

30年暮らしている住宅に住む高齢単身女性(85才)。
現在は、長屋の2Kの部屋に暮らしているが、
住宅の老朽化に伴う建替えにより、立退きを求められている。
収入は月15万円の年金のみです。
身寄り(娘)は遠方(神戸市)にいるが、過去の諍いもあり、
あまり頼りたくないと思っているようだ。
耳が遠く、慢性疾患(糖尿病)を患っており、かかりつけの病院に定期的
に通っているため、遠くへの引越しを望んでいません。
また、少し物忘れがあるようです。

1)この方の、次の住まいが決まりません。

大家さんに断られる理由は何ですか？

2)この方が住まいを確保するためには、どんな支援が必要ですか？

それぞれの部局で、どんな支援が出来るのかも考えておきましょう。

ワーク④ 行政における福祉と住宅の連携とは。

○どうすれば、
住宅確保要配慮者が安心して暮らせる住宅を確保できるネットワーク
(しくみ)をつくることが出来るか考えてみよう。

○どんな支援が必要ですか。

福祉・住宅それぞれの部局で出来ること。

他団体の協力が必要なこと。

また、どのような連携が考えられますか。

・例えば、大家さんに安心して、要配慮者を受け入れてもらうには、
どのようなフォローがあればよいか、考えてみましょう。